

WWLプログラム「English Salon」などの取り組み

— 大阪教育大学 教員研修留学生と高校生の学び —

① 概要

本校では、2015年度より、SGH及びWWL拠点校として、グローバル人材の育成に取り組んできた。そのカリキュラムの一つとして、同年度よりグローバルセンターと連携し、平野校舎で、本学の留学生と学ぶ「English Salon」や「多文化理解講座」を実施してきた。これらの目的は、高校生が様々な国の社会課題、国際問題、歴史や文化、生活事情等を知り視野を広げること、英語のコミュニケーション力を高めることである。

10年間の取組では、高校生にとっては、様々な国の社会、文化等を学びながら、英語でコミュニケーションを図る貴重な学びの機会になった。また、留学生にとっては、日本の学校現場で活動し、教育事情などを知る機会となった。

- 12月29日 留学生6人 生徒8人
留学生との堺市街巡りを高校生が企画し、一緒に現地の歴史、文化を学ぶ。
- 1月20日 留学生11人 生徒66人
「高校生国際会議」
午前、WWL連携校の高校生との交流
午後、高校生の課題研究の発表への助言、意見交換
- 2月21日 留学生9人 生徒11人
English Salon 最終回 振り返りなど



② English Salon

- ・週1回放課後の活動。1・2年生の自由参加。32名が参加
- ・留学生は、教員研修留学生10名が参加

- 4月6日 留学生10人 生徒26人
グループに分かれSDGsカードゲームを用いて諸外国の社会情勢を学ぶ
- 5月10日 留学生3人 生徒18人
留学生の自国プロフィールを、留学生と生徒が分かれて、それぞれ英語でポスターを作成し、紹介しあう
- 5月～8月（4回） 留学生16人 生徒34人
文化祭での英語発表の準備。ポスター作成と留学生によるプレゼンの指導
- 9月9日 留学生2人 生徒6人
文化祭で留学生の国の社会、文化などについて英語でプレゼンを行う
- 10月25日 留学生3人 生徒15人
ウガンダ・エドウィン先生の数学の授業
活発な質疑応答と意見交換
- 11月8日 留学生3人 生徒19人
マラウイ・ハラ先生のアフリカ音楽の授業。現代アフリカ流行音楽を学ぶ
- 11月～ チリの高中生12人 平野生徒14人
チリ・ナタリア先生の勤務校の高校生と平野校舎の生徒がメールや動画の交換と交流（継続中）



③ 多文化理解講座

- ・1年生または2年生（全員）が、諸外国の社会、歴史、文化などについて留学生と学ぶ講座（年1回～2回）。
- ・本年度は2月21日に実施。教員研修留学生など9人が、1年生3クラスの生徒と、自国の文化や教育、社会課題などを紹介しながら、グループで意見交換



④ 成果

- 実施後の生徒のアンケート（自由記述）では、
- ・たくさんの諸外国の文化などを知る貴重な機会になった。
 - ・海外の国の特色についてたくさん学び、知見を深めることができた。
 - ・英語の授業では話しにくいことも、English Salonでは多少間違っても理解してくれるので話しやすかった。
 - ・留学生の方がうまく誘導してくれるので話しやすかった。
 - ・もっとコミュニケーションが図れるよう英語のボキャブラリーを増やし、慣用表現などを学びたい。
 - ・もっと対話する時間がほしい。
- 留学生からは、
- ・平野校舎の数学の授業を見学させてもらい、日本で教え方について、知ることができ、参考となった。
 - ・自国の生徒に対しても、英語のコミュニケーション力の向上に向けて工夫しているが、日本でも同じ課題があることがわかった。
 - ・勤務校の生徒と日本の高校生のメール等の交流を希望していたが、実現できた。来年度の勤務校の生徒との交流も約束できた。
 - ・高校生が接心に話を聞いてくれるので、やりやすかった。